

編集後記：グローバルゼーション時代の学術論文

前年度（平成 14 年度）に本紀要の編集実務を担当された真邊一近教授は、第 3 号の「編集後記」欄で、次のように書かれています。

「日本大学大学院総合社会情報研究科は、平成 11 年（1999 年）4 月に、インターネットを積極的に利用した日本で最初の通信制大学院としてスタートしました。……4 年目の現在では、ADSL 回線（8Mbps・12Mbps）、場合によっては光ケーブルを新入生には推奨するようになりました。わずか 4 年で通信スピードは 100 倍、あるいは 200 倍に達しています。」

「昨年度〔平成 13 年度〕からサイバーゼミシステムが導入され、ゼミのメンバー全員が同時に参加できる双方向のコミュニケーションが可能になりました。サイバーゼミを初め、サイバー講義、サイバー講座、サイバー輪読会など、このシステムを利用した様々な形態の遠隔教育が試みられています。今後、さらなるブロードバンド化に伴い、教育システムも進化していくことが予想されます。」

本大学院の研究紀要は先ずは紙媒体から出発しました。創刊号は印刷本 1 巻という体裁でした。

インターネットを積極的に駆使した日本初の通信制大学院として発足した本研究科は、サイバー大学院という特性を推進するという意味で、紙媒体に加えて、ホームページ上から手軽に印刷・ダウンロードできるインターネットジャーナル（電子紀要）をも同時に刊行することにしました。

電子ジャーナルの大きなメリットとは何でしょうか。理論上は、世界中のすべての人が瞬時に、私たちの研究成果にアクセスすることが出来る、ということではないでしょうか。見ず知らずの、地球の裏側の人々が、パソコンさえあれば、私たちが苦労して書き上げた記事を読んでもくれる。いわば、世界中のすべての人が私たちの読者であり、学問上の対話者になりうる無限の可能性を秘めている。このようなところに、グローバルゼーション時代の学術論文として電子ジャーナルが担う意味があるのではないのでしょうか。

本年度は、電子紀要を 3 回発行することが出来ました。同時にまた、今年度から本大学院に博士後期課程が設置され、後期課程在学者の論考も多数、掲載することが出来ました。質量ともに充実したものとなりました。

投稿頂いた先生方および修了生・後期課程在学者、またご指導に当たられた先生方に、謝意を表します。また、編集作業一般につき適正な助言を頂いた近藤大博教授、編集作業にご協力賜りました真邊一近教授および修了生橋本信彦氏にも、改めて感謝申し上げます。

(2003/2/3)

編集実務担当 佐々木 健

編集[審査]委員

五十嵐雅郎
乾 一字
上田邦義
小松憲治
近藤大博
佐々木健
竹野一雄
田中堅一郎
永岡健右
真邊一近
宮本 晃

Editorial Board

IGARASHI Masao
INUI Ichio
KOMATSU Kenji
KONDO Motohiro
MAMABE Kazuchika
MIYAMOTO Akira
NAGAOKA Takesuke
SASAKI Takeshi
TAKENO Kazuo
TANAKA Kenichiro
UEDA Kuniyoshi